

大学のFDフォーラムを開催

2月14日午後3時30分よりリサーチセンター2階大会議室で第6回FDフォーラムが行われ、85人の出席者があった。フォーラムは前半と後半に分かれ、前半では5つの学科における習熟度別クラス編成に関する事例報告が、後半では平成13年度前期に実施された『学生による授業評価』に関する報告が行われた。

前半では杉井俊夫助教授による土木工学科の報告

を皮切りに機械工学科（坂田敏行教授）・電気工学科（後藤英雄助教授）・英語英米文化学科（大門正幸助教授）・理学教室（竹中俊美教授）の発表があり、各学科においてどのような形態で習熟度別クラス編成が行われており、どのような効果があがっているか、あるいは逆にどのような問題が生じているかについて報告がなされた。



F Dフォーラム会場風景

大学教育研究センター副センター長の三浦真琴助教授による後半の発表では『学生による授業評価』アンケートを(i)設問間の相関関係、(ii)専任教員と非常勤講師との比較、(iii)諸指標(年齢・勤務年数・クラスの大きさ・出席率・授業区分別)などの様々な視点から統計的手法を用いて詳細に分析した結果が報告された。また、報告された分析結果を基に、授業改善のヒント(a)講義内容に対する理解が深まるように工夫を凝らす、(b)学生が触発されるような講義を心がける、(c)板書等を分かり易くするように留意する、(d)学生に教員の熱意が伝わるようにする、が提示された。

なお、三浦助教授による今回の発表は大学教育研究センター発行の『中部大学教育研究』に掲載される予定である。

(大学助教授・英語英米文化学科 大門正幸)